



齋藤 好彦 議員

最上「道の駅」構想の方向性は

最上地域検討委員会等で検討する

議事では「道の駅基本構想の素案」の報告があり、具体的な候補地まで提案されており、このような状況について、町長の考えを伺います。

【質問】 先の一般質問において、最上地域振興を図るため、地域住民へのサービス提供や圏外からの誘客促進などの機能を有する拠点として、最上8市町村での「道の駅」構想を提案いたしました。一向に方向性が見出せないのが現状です。新庄市

うな形で、町の産業振興、観光、住民サービス、防災機能、交流連携といったネットワークに関わること、最上地域検討委員会での整備構想の経過を見ながら検討していきたいと考えております。

【町長】 昨年3月に「最上地域の「道の駅」検討委員会」が設置され、管内市町村長、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所長、山形県土整備部長、最上総合支庁長が委員となって検討しています。

【町長】 最上地域の広域連携による観光誘客プロデューサーを活用する

町長の考えを伺います。

【質問】 近年、特に訪日外国人旅行者数が増加傾向にあり、県内においても酒田港に寄港する外航クルーズ船観光客などの受け入れ環境整備事業に取り組みしております。最上広域としても、もがみ観光資源のブランド化による「勝てる商品づくり」が急務であると思えます。

【町長】 最上地域の広域連携による観光誘客については、最上地域観光協議会が中核となって、最上8市町村の観光振興策に取り組みしています。また、最上観光資源のブランド化については、豊かな自然や歴史文化、食など幅広い観光資源を結びつけた楽しみ方等について、市町村関係者との情報交

換を促進し、売れる旅行商品を観光誘客プロデューサーが適時的確に売り込みを行っております。今後とも、最上地域観光協議会の観光誘客プロデューサーを活用しながら、町の観光資源を提供していきたいと思えます。その上で、受け入れ態勢の整備を図り、町PRに努めていきたいと思えます。



利用者が増加している道の駅

【質問】 森町長は、「災害発生時における福祉避難所の設置に関する協定」及び「災害時における物資供給及び貸与に関する協定」を、町内の4施設と平成28年8月に締結しています。対象者は「高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児」となっており、収容人数は70名となっております。

【町長】 町では、高齢者や障がい者を持つ方、妊婦の方や乳幼児などがより安心して過ごせるよう、今後災害が発生し、各施設に開設を要請する場合、施設に必要な備品や供給体制はどう考えているのか、また、発生時のシミュレーションを行っているのか伺います。

今後災害が発生し、各施設に開設を要請する場合、施設に必要な備品や供給体制はどう考えているのか、また、発生時のシミュレーションを行っているのか伺います。



医療情報の確認を

福祉避難所開設体制は万全か

各施設の防災訓練時に確認していく



石山 和春 議員



災害にそなえ備蓄している食料品

【質問】 救急医療情報キットは、個人情報として「生年月日・かかりつけの医療機関・服薬」など

救急医療情報キットの活用の周知は、広報等で周知し有効活用

【町長】 救急情報キットは、既往歴や服薬、血液型等の医療情報を、医療の現場に伝えるために実施し

ました。「もしもの時」に備える、大切な「命のバトン」と考えています。医療情報の書き換えについては、9月1日の防災の日を予定していますが、実施されずに至っています。更新作業を積極的に進めてこなかった事実を真摯に受け止め、広報等で医療情報の書き換えを周知し、有効に活用できるように努めていきます。